

「GX3 / CPs」

2024年8月8日

東海大学

細田 衛士



東海大学湘南キャンパスから見た富士山

「この世界はそれ自体としては人間の理性を超えている。ーこの世界について言えるのはこれだけだ。」

アルベール・カミュ 『シーシュポスの神話』 より

いまだによくわからないGX

- GXとはグリーントランスフォーメーションの略。簡単に言うと、**化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現**に向けた活動のことです。
- 現在、人間が生きるため、豊かな生活を送るためのさまざまな活動のエネルギー源は、石油や石炭などの化石燃料が中心です。化石燃料は、消費するときに二酸化炭素をたくさん排出しますが、地球温暖化の最大の原因となっているのが、この二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスです。
- **化石燃料に頼らず、太陽光や水素など自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用を進めることで二酸化炭素の排出量を減らそう、また、そうした活動を経済成長の機会にするために世の中全体を変革していこうという取り組み**のことを「GX」と言っています。

資料出典：経済産業省、<https://journal.meti.go.jp/p/25136/>

東海大学 細田衛士

こう言っては申し訳ないが、実に空疎な内容

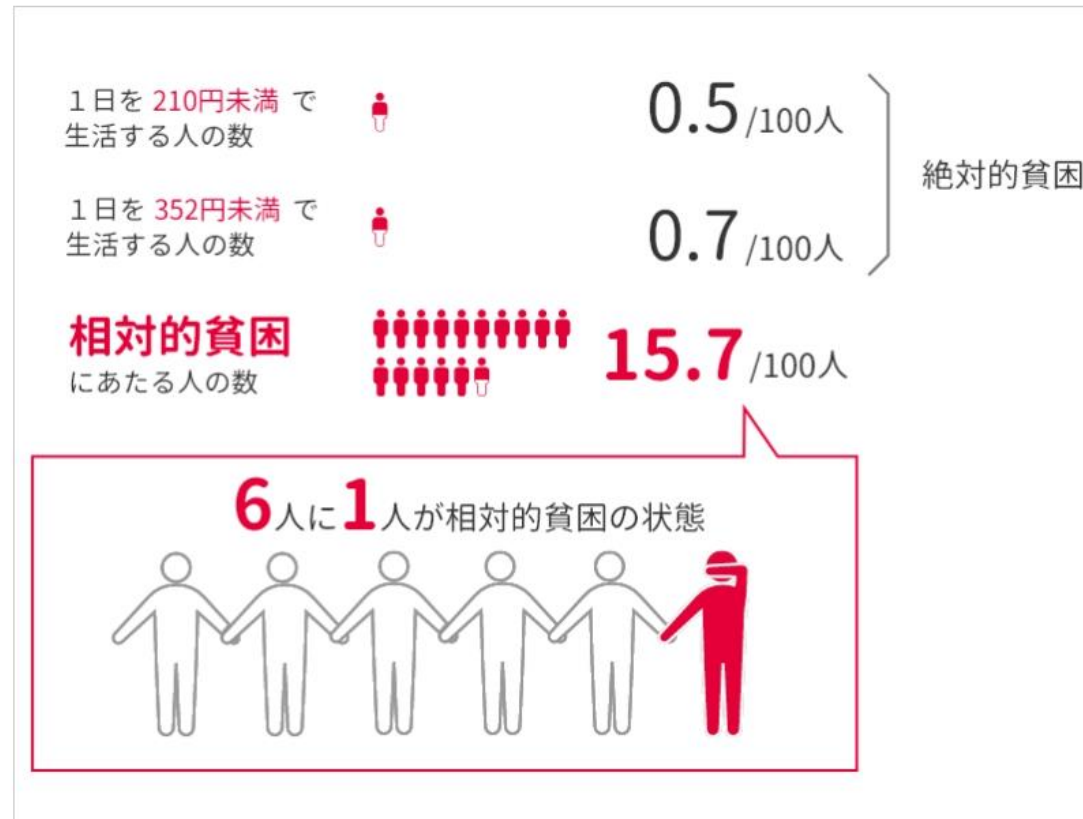
- 温室効果ガス排出をゼロにすべく（カーボンニュートラル）**経済社会を変革**しよう、ということらしいが、ほとんど空疎な文章。
- この目標に向けて**経済社会をどのように変革**するのか、**具体的な中身が欠如**していて、空念仏に過ぎない。
- いま、**経済（資本主義経済）は大変革**を迫られている。
- **私益と公益を両立**させ、**持続可能な経済社会を実現**するための**具体的な施策**が問われている。

ところで現在の日本の経済の大問題の1つ

- 日本は世界の先進国の中でも**相対的貧困率*が高い**。
- 日本の**相対的貧困率は15.4%**、**子供の相対的貧困率は11.5%**（2021年、厚生労働省）。アメリカ（15.1%）や英国（11.2%）の相対的貧困率と比べても高い。
- **6人に1人が相対的貧困**。
- **一人親世帯の相対的貧困率は44.5%**。
（以上『日本経済新聞』ウェブ、2023年11月）
- これは**OECD35カ国の中でワーストワン**。

* 相対的貧困率：等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した値）の中央値の半分に満たない世帯員の割合のこと。

資料：日本の貧困



注1:OECD（経済協力開発機構）によると、相対的貧困とは「世帯の所得がその国の等価可処分所得（手取り収入を世帯人数の平方根で割って調整した額）の中央値の半分（貧困線）に満たない人々の割合」と定義されています。

注2:厚生労働省「各種世帯の所得等の状況（p.6）」<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa19/dl/03.pdf>

資料出典：GRAMEEN NIPPON, <https://grameen.jp/about/poverty/#:~:text=>

つまり現在の経済社会を根本的に変革する必要があるということ！

- 今の経済は、いわゆる **“Winner-takes-all.”**（一人勝ち）の状況、すなわち **勝ち組と負け組に分かれる経済**。
- これは、明らかに **日本の文化・伝統に反する**。
- **近江商人**は、商取引によって当事者以外の **社会全体が良くなる**ことを考えていた⇒ **「三方良し」**。（これは後で作られた言葉のようだが。）
- **公益を忘れた経済は持続可能ではない。**

ハードローとソフトローのベストミックスが 経済社会を変える

- 競争市場を基盤とした資本主義経済を否定しても仕方がない。
- しかし、市場競争、私益の獲得に一定のタガをはめないと市場は暴走する。
- ハードローとソフトローをうまく組み合わせ、市場を制御し、私益と公益を両立させるよう経済の制度を設計しなおす必要がある。それこそが、“X”なのではないか。
- 現在の経済では、消費スタイルが大きく変化しつつある
⇒ **Sustainable consumption!**
- モノの消費からコトの消費へ移りつつあるのだ。
- 残念ながら生産スタイルがそれに追いついていない。

この動きを加速させるための制度が必要

Real Transformation RX



競争経済と共創経済

- 競争経済は重要だが、**共創経済**すなわち **“Co-creative economy”**がこれからは決定的に重要になる。
- それを実現するのが**ソフトロー**。
- Ishimura, Y., T. Shinkuma, K. Takeuchi and E. Hosoda (2024) “The effects of regional goal setting of household waste”, *Ecological Economics*, Vol. 215, January 2024, は、市町村の策定した一般廃棄物削減目標、食品ロスの削減目標に市民が連携協力することによって一般廃棄物排出量が減少したことを計量経済学的に示した。
- **これもソフトロー的な動きによるもの**と解釈できる。

CPsの重要性

「経済産業省は、2023年3月に策定した『成長志向型の資源自律経済戦略』に基づき、サーキュラーエコノミーの実現を目指し、産官学の連携を促進するためのパートナーシップ『サーキュラーパートナーズ』を設立しました。

サーキュラーエコノミーの実現には、**個々の企業だけでは難しいため、ライフサイクル全体の関係者の連携と取り組みの拡張が必要**であり、サーキュラーパートナーズはその一環となります。」



⇒ **共創力**の創出・向上

資料出典：

<https://www.cps.go.jp/article/a04GA00001Eh4fJYAR/%E3%82%B5%E3%83%BC%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%91%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%82%BA%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6>

CPsと共創力の創出と向上

- 共創力の創出・向上とは：知識、知恵、情報の共有による外部効果の発揮。⇒情報プラットフォームの重要性。
- シェアリング、サブスクリプション、リース・レンタルなどによる資源節約・循環利用による資源の付加価値生産性の向上。
- 同業種のみならず異業種のパートナーシップによる新しい付加価値の創出。
- そして私益と公益の両立⇒マイケル・ポーターの言う **Creating shared value** の実現。

共創経済による守破離の完成！

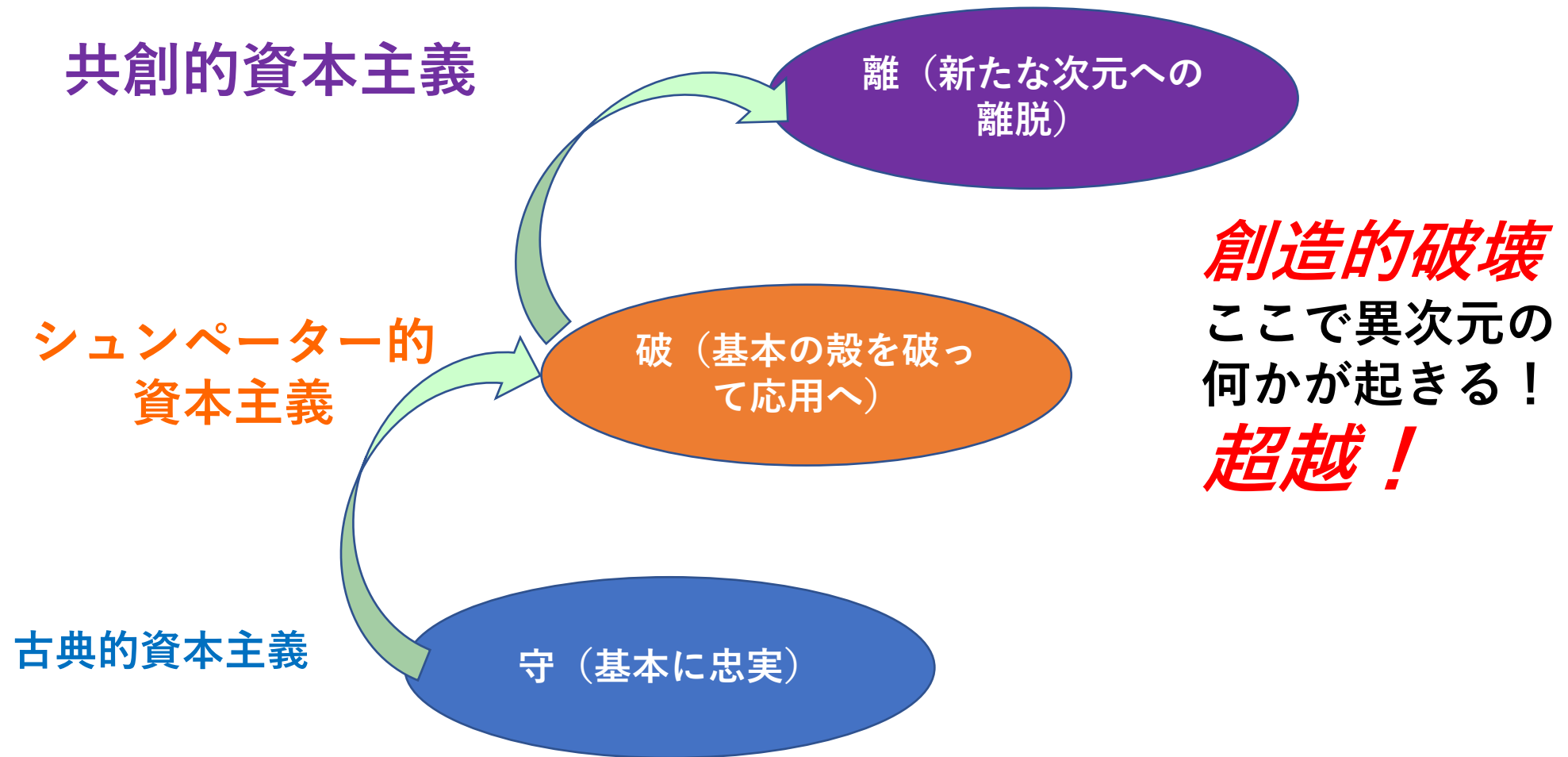
- **古典的な資本主義経済**は守破離で言うと「**守**」に相当。
- シュンペーターのいう「**創造的破壊**」の**経済**は「**破**」に相当。
- そして**共創経済が従来の経済を「離」に導く**。
- **CPsはその重要な役割**を担うはず。
- 日本はかねてより**団体戦**に強い（最近の若者は個人戦にも強いが）。
- **CPsで真のトランスフォーメーション X**を実現する！

日本の団体戦の強さここにあり！

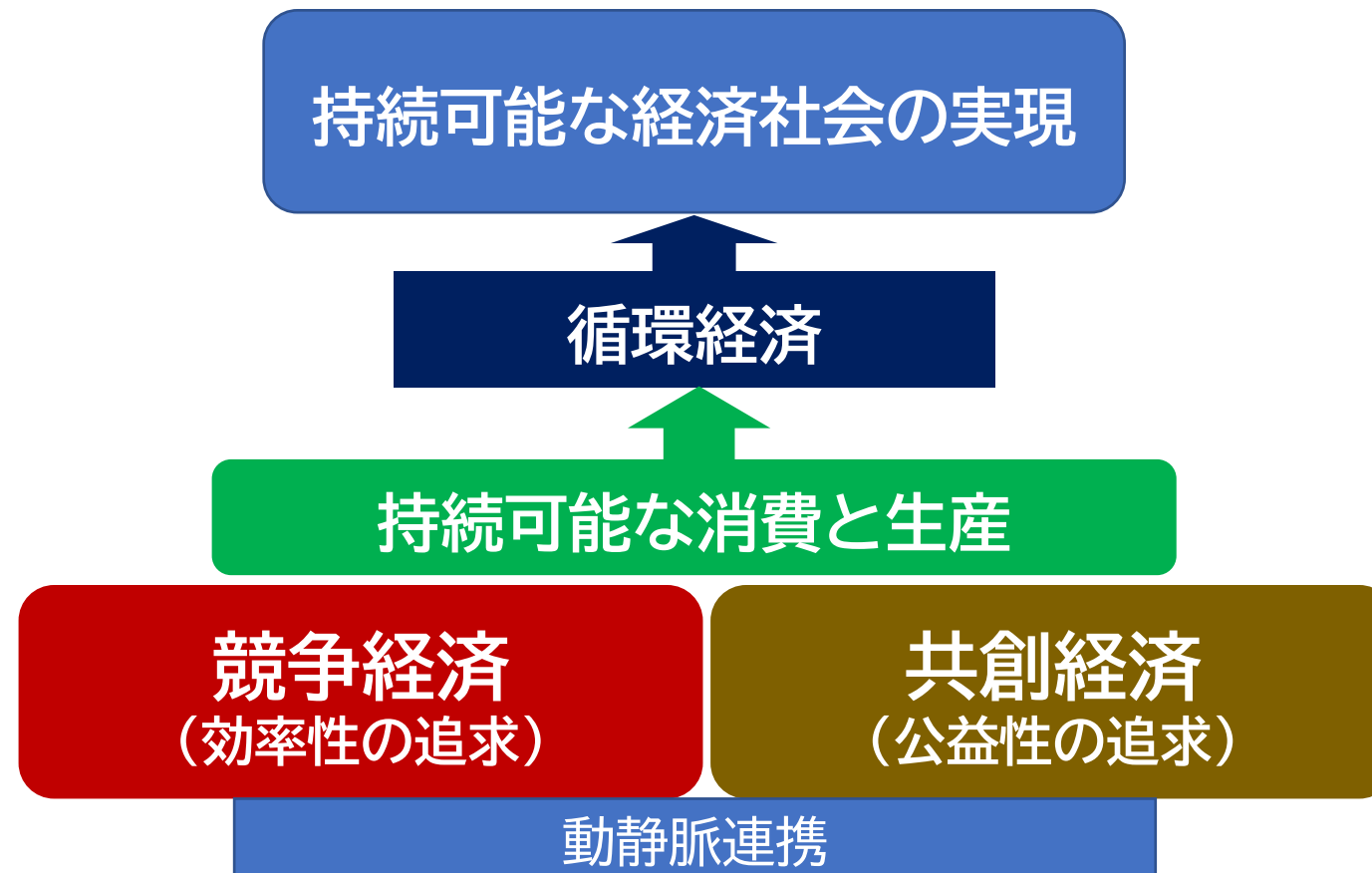


資料出典：NHK、<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240730/k10014529091000.html>

去年も話した「守破離」

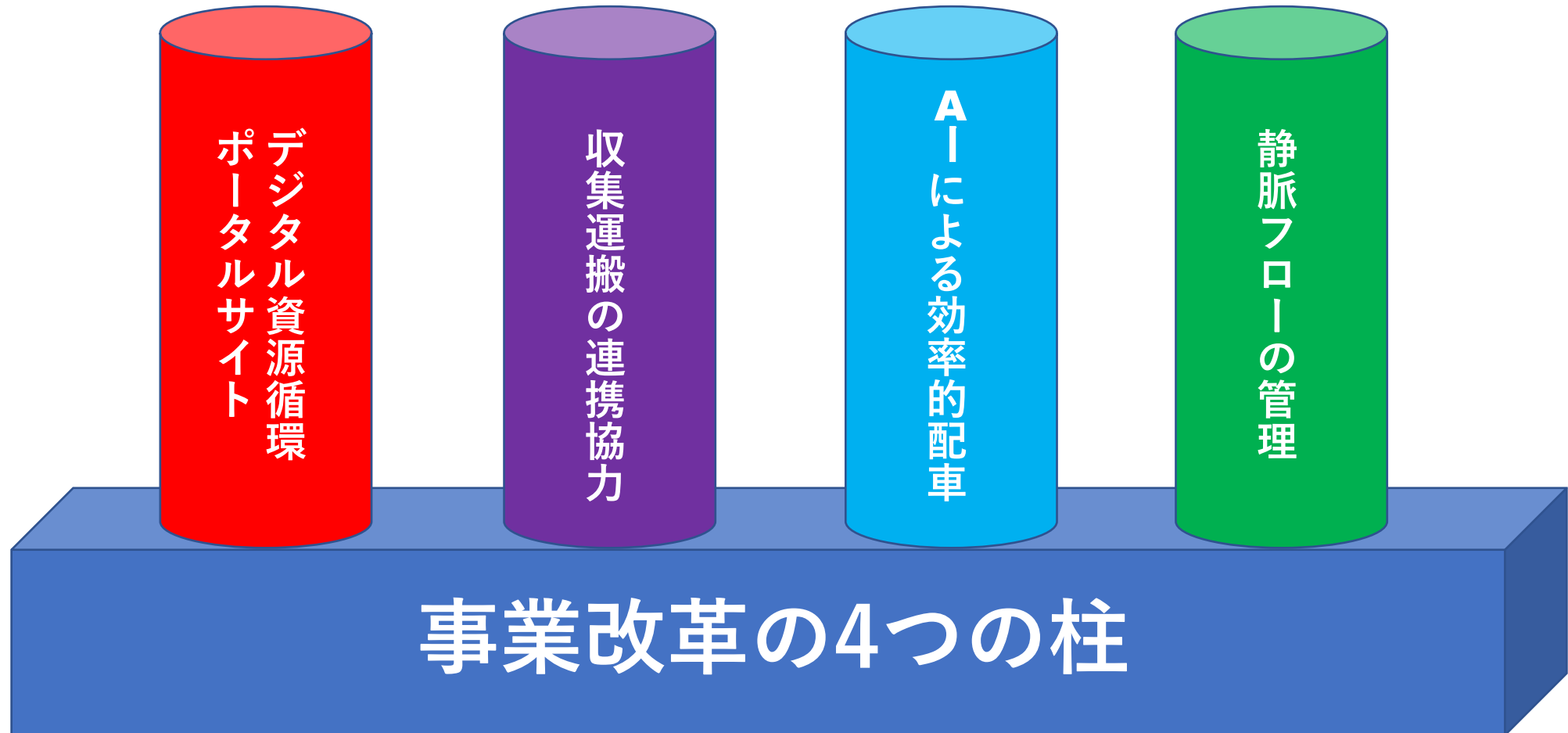


動静脈経済連携の作りだす循環経済



共創力（連携協力）の事例

都内のある収集運搬事業者の事例



共創力の効果

- **DX化によるポータルサイトの運営**によって、受付－見積－契約－電子マニフェスト申込－発注－決済の流れが**一気通貫型**。
- **意欲ある収集運搬会社の連携協力・事業分担**が可能になり、ポータルサイトの利用により**効率的業務の遂行**が可能となった。
- 従来と比べて回収の**パッカー車**が半分以上に。
- 収集件数が236%増加する一方、**走行距離が21%減少し、回収時間も36%減少**！（シミュレーション結果）

おわりに

- **GX**なるものがあるとすれば、それは**競争経済と共創経済をカプリングした新しい経済**。
- そこでは、**ハードローとソフトローが2つの経済をうまく同期させ、私益と公益を両立・調和**させる。
- 武道（茶道）の言葉で言えば「**守破離**」を**実現**すること。
- **共創的経済社会（Co-creative socio-economy）**は日本のお家芸のはず。
- アメリカ・EUの良いところは学ぶべきだが、**猿真似**をしても仕方がない。